

---

# 偉せは秘やかに涙を流す

伎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

偉せは秘やかに涙を流す

### 【Zコード】

Z4571P

### 【作者名】

伎

### 【あらすじ】

もしも願いが叶うのならば

こんな想いをする前に戻しては貰えませんか

偉せだったことなどないけれど

こんな想いをしている今よりは偉せだったと思ひます

悲しくて苦しくて

それでも想いは止まらない

そんな悲恋の物語。

起きてしまったこと止められないのだと、人は起きて欲しくなかつたことが起

このお話のジャンルは恋愛ではなく敢えて文学にしました。  
実際、恋愛ものと呼ぶには甘い場面が一切ないうえに、登場人物も  
少なく単調です。

なのであまり恋愛だと気負わず読んでもらえると有難いです。

起きてしまったことは止められないのだと、人は起きて欲しくなかつたことがお

とある場所のとある中学校でこの物語は始まる

「…死んだ?」

2人が同時に言った

「嘘だよね…?」

1人は隣にいたクラスメイトに尋ねた

「嘘だろ…」

1人は自分に言い聞かせるように呟くと俯いた

一瞬動揺を見せた彼女も今は普段通り元気に過ごしている  
あの衝撃的な知らせがあつてからまだ何分かしか経っていないとい  
うのに。

「何で…」

彼はその後に続く言葉を無理やり呑み込むと立ち上がり教室を出  
て行つた

彼女は仲間と話を止めてその後ろ姿を見ていた  
その顔には仲間のクラスメイト達に向けていた楽しそうな表情は微  
塵も残つていなかつた

教室を出た後、彼はすぐ図書室へと向かった  
重厚なドアを体ごとぶつけた様にして開くと、そこには本が整然と  
並んでいた、普段通りの図書室があった

「お前も、顔と同じなのか」

彼は誰もいない図書室に向かって呟くと図書室の奥へと入つていった  
そして迷路の様に入り組んだ本棚の間をすり抜けると、姿を消した

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4571p/>

---

僕せは秘やかに涙を流す

2010年12月12日19時39分発行